



◆町民参加の発掘

長年にわたる発掘調査に多くの町民が参加した。中でもベテラン主婦3人は、豊富な経験から得意分野ごとの調査補助員の役割を担い、現場のリーダー的な存在だ。

土の色や硬さで古さを判断する土層の識別は、上ノ国町豊田の竹内江美子さん（48）に任せられている。「子供が風邪をひくと、祖父母に預けて発掘を続けた。神社跡から多量のおさい銭が出たときはびっくりしました」と振り返る。

焼き物の見分け方が得意な同町大留、山崎洋子さん（55）は「茶道具が見つかったとき、実際にお茶をたしなんだ生活があったと知り、すごいところだと思った」と興味津々。建物に詳しくなかった同町大留萌、笠谷奈智子さん（49）は「土の下に柱の跡があるなんて信じられなかった。次に何

が出てくるか楽しみ」と好奇心旺盛だ。
現場から歴史を解き明かすのは町民の手だ。松崎さんは「皆さんが得意分野を見つけ、工夫を重ねていろいろな力を出し合う。町民の協力なしで調査はできない」と強調する。

まちつくりと遺産

新たな観光地に

勝山館跡が北海道遺産選定を受け、新たな観光スポットになろうとしている。江差、上ノ国、松前の3町を結ぶ国道228号を「歴まち街道」として、観光バスが4月下旬から夷王山駐車場に停車し始めた。

バスの観光客が館跡の近くを探訪する機会もある。上ノ国町企画政策課の疋田英夫課長は「段階的に整備し積極的に公開したい。03〜04年度には一部を復元して説明案内板も設置し、将来は観光資源として生かしたい」と話す。

同町教委文化財課の渡部孝之課長は「多くの方が現地に立って、中世の人々の生活を実感してほしい。北海道に、開拓使が置かれる前の歴史があることを理解したうえで、北海道の歩みを考えてほしい」と力説する。

Data



●お問合せ先
上ノ国町教育委員会文化財課 Tel.01395-5-2230